

2013.2.20

社会の悪は病的ナルシズムと知的怠惰が原因である

(東日本大震災からの復興を軌道に乗せるために考えよう)

渡邊正己

京都大学名誉教授

(msm@rbnet.jp)

この表題は、米国の精神医学者 M.スコット・スペック氏が著書「平気でうそをつく人たち」(日本語版、草思社)で主張する内容を纏めたものである。彼は世の中の悪が、おおよそ「病的なナルシズム」と「知的怠惰」が原因となって生み出されると指摘する。「ナルシズム」は、ある種の自己防衛反応であり、通常は、愛情深い理解のある親のもとで正常に成長し、大人になると「卒業する」ものと考えられている。しかし、冷酷で愛情のない親を持った場合、あるいは、子供時代に様々な理由で精神的外傷を受けた人の場合、自分にふりかかる困難から自分を守るために幼児性ナルシズムを発揮するという。一方、「知的怠惰」は論理的な思考を放棄することである。私達は困難な問題に直面し厳しい判断を求められるときに、その重圧から逃れるために、身近な論理で考え結論を出すこと(常識的行動)を放棄することがある。そして論理を超越したカリスマや国家組織に判断を求める行動を生み出し世の悪を生み出すのだという。しかし、私は、一見、次元の高そうな論理を超越した結論に飛びつくよりも、結論に辿り着くことができないままに考え続ける方が、はるかに建設的で生産的であり、多くの人を不幸にする行動を生み出さず安心な社会を維持するために必要であると思う。論理性は教育でのみ培われるものであり、その技術を習得することに大学教育の役割がある。

私は、自分のホームページの「本来無一物」に過去2回続けて、緊急時に専門家は「専門性」で社会に貢献する必要があると自説を述べた。しかし、この数週間、新聞をにぎわせ、国会予算委員会で繰り広げられる与野党のやり取りを見て、再度、「専門家の役割について」指摘するべきと思いこれを書いている。私がここで言及したいのは「福島原発に伴って設置された国会事故調査委員会の調査に東京電力が協力しなかった」という事象である。国会事故調査委員会は、2012年3月に、福島原発の事故現場で第一号機の非常用復水器が津波ではなく地震で壊れ機能しなくなったのではないかという疑念を確かめるために立入検査を申し入れたが、東京電力の担当者の「原子炉建家内は真っ暗で危険ですよ」という意見を受け入れ「立入検査は中止」と委員長が決めたという。私は、その際、東京電力が虚偽の現状説明をして検査を故意に妨害したかどうか国会予算委員会で繰り返し質問されていることに違和感を覚える。

国会事故調査委員会は、今回の福島原発事故の原因を政府や事業者から独立した立場で調査するために設けられた委員会である。然らば、事故の原因を解明するために事故現場の状況を直接検証することが必須であるという論理的な考えに立てば、委員会が取った行動は委員会の最も大切な責務を忘れている。委員会には、東京電力の関係者が「現場は暗く何も見えない」といえば、独自に光源を準備し、「放射線量が高く検査は危険」といえば放射線測定の実験家の協力を得て独自に調査を進め判断すべき責任がある。事故調査委員会の委員には専門家としての責任とともに、専門を越えて物事を論理的に判断することが要求される。

スコット・スペック氏は「人間の集団の行動は個人の行動に極めて似ているが、驚くほど未熟である」と指摘している。ベトナム戦争時に米軍兵士がソンミ村の非戦闘員の村民数百人を殺害した事件を引いて、個人レベルでは論理的に考えて行動できるにも関わらず、集団となる

とその論理性が失われてしまうことがあると解析した。そして、そうなる理由の一つがいわゆる「専門化」であると指摘する。例えば、一台の自動車を作るために、様々な技能を持つ専門家が、それぞれの専門化した作業を分担することによって、個人で全ての作業を行うよりも、効率的で高度な作業を可能にし質の高い自動車を容易に作ることができる。設計者、金属加工者、塗装作業者、販売者などの業務を「専門化」することによって高度な成果が期待できる。このように、専門集団は個人よりもはるかに効率よく機能するのは間違いない。しかし「専門化」は様々なメカニズムで集団の未成熟さや社会の悪を助長する可能性が大きい。社会の現象は一つの専門で出来上がるものではない。都合の悪い問題が生ずると「それは私の専門ではない」と責任を他に転嫁する。その転嫁は「専門」から「専門」へ受け渡されとまることがない。このことが個人の良心を捨てさせ、集団の中での良心を分散化する。そして、論理的思考をする個人の常識ではあり得ない「社会悪」を育てる。

東日本大震災後、既に 2 年近くを経ているにもかかわらず各地で復興が大変遅れていることは、誰の目で見ても明らかである。その事象は、自分「専門」のところで生じているのではなく他にありとたらひ回しにすることから生じているのではないだろうか？ 国のレベルで取り組むべき事業に伴う社会の悪は、社会を成り立たせている全ての専門家が自分のこととして捉えることなくして解決しないと思うが如何だろうか？